

青少年の性意識と性行動に関する健全な性の価値観を教える プログラムの効果に関する研究

ソンムン大学純潔学部教授
サンファイ・ムン

この研究は青少年の性意識と性行動に関する健全な性の価値観を教えるプログラムの効果について探求するために行われた。この研究のために、私は他の2人の教授と共に4つの異なるテーマに関する4時間のプログラムを開発して、同じ160人の生徒に対して、4つの変った時間のセッションを通して教育プログラムを実施した。この研究はプログラム前後の2回に実施した調査を通して160人の生徒から回答を得た。また、定性的研究も行った。160人の生徒の中の70人の生徒を無差別に抽出して、個々に面接した。調査からの結果は定性的面接からの結果の補足となった。この研究のために実施したプログラム前後の実施した調査の信頼性と妥当性の分析は、11の質問による3つの変った要因（性意識、性行動、純潔家族計画および受諾）が信頼できるものであることを示した。

一対の t-テストを用いた前後の分析は、健全な性の価値観を教えるプログラムの実施後は、性意識に関する指標は $0.94(p<0.05)$ から $0.98(p<0.05)$ へ改善し、純潔家族計画および受諾に関する指標は $0.87(p<0.05)$ にまで跳ね上がるなど、プログラムの参加者に対してプラスな効果があったことを示した。しかしながら、反復測定分散分析を繰り返しても、性行動 ($F=0.440, p>0.05$) における男性と女性の生徒間にはほとんど変化がなかったことを示した。性意識 ($F=11.064, p<0.05$) 及び純潔家族計画と受諾 ($F=20.267, p<0.05$) に関する認識は、男子生徒よりも女子生徒の方がより改善したことが判明した。

言い換えれば、このプログラムによって、女子生徒の方が健全な性に関する価値観をより堅固に確立した。それは、性意識と性行動に関する健全な観点を確立するためには、健全な性に関する価値観を教えるプログラムを10代の若者にも拡大するべきであることを明確に示している。のみならず、純潔家族計画と受諾における男女間の格差は、男女に異なって適用される二重基準を青少年が受け入れていることを意味している。この問題を解決するためには、健全な性の価値観教育を男女に平等に実践し、性に関する一般的な認識において包括的な変更を行う必要がある。

序論

近年、韓国社会においてマスメディアの発展と共に無作法な性の情報や性の商品化によって不道徳で退廃的な風潮が韓国の伝統的な性の価値観に混乱をきたしている。(リー、2003)。性的な好奇心や性的な衝動が思春期に頂点に達する青少年は、彼らが自己の性のアイデンティティを確立できる前に、インターネットを通して分別なくみだらな情報を習得し、間違っ

た性意識や性行動をそのまま模倣するという問題点を秘めている。

韓国の性暴力相談所が調査したインターネット淫乱物の経験率に関する調査結果によると、中学生男子は87.8%、高校生男子は93%に達し、中高生達は淫乱物のポルノグラフィーにさらされており、性的葛藤と混乱の中で苦悩しているとのことである。(性暴力相談所、1997)

2007年12月に、大邱小学校で起きた数十人の集団レイプ事件は性教育を実施している学校の教育現場が性犯罪の場所であったという事実に対し、不健全な中高生の性意識と性行動の問題を露わにしているとして韓国社会に大きな衝撃を与えた。(世界日報、2008)

さらに深刻なことは、大邱市の事件後、2008年5月2日に教育科学技術省が取った“学生の性暴力に関する総合対策”が従来の対策から何も進展がなく効力がなかったために、“対策のない対策だ”と市民たちから非難を浴びているという事実だ。(Shin, 2008) 韓国は教育人的資源部が発刊した“性教育の手引き”に沿って全国のすべての小中高校で、性教育担当の教師による性教育プログラムを実施している。(Kim, 2003)しかしながら、多くの中学生が高校に入学する前に、すでに多くのみだらなポルノグラフィーの情報に曝されてしまっているために、学校における性教育には限界があると教師たちは訴えている。(Lee, 1997)このような事実を見たときに、青少年の性問題を予防するための学校における性教育の限界性と、政府の青少年の性問題に関する対策の限界点を認識することができる。

第2次成長期が始まる中学生の低学年に値する学生たちは突然的な肉体的変化と共に精神的な変化による不安という心理を経験するようになり、さらに、性的好奇心や性的衝動によって非理性的に考えたり、自分をコントロールすることができなくなる時期である。このような時期に、間違った性意識によってアイデンティティの喪失を感じたり、性的に適応できなくなることが多い。(Lee, 1993)したがって、彼らが性のアイデンティティを確立し、性犯罪を予防するのを助けるために健全な性の価値観教育が要求される。

健全な性の価値観を教育することは、青少年が健全な性意識と性行動を確立するのを助け

るために必須であり、彼らが性に関する責任ある決定をするのを助けるための重要な要素として役立つであろう。(Park, 1993; Gu 1997)

父母と学校は性教育の第一の教育者としての役割を果たすべきである。家庭は子女たちの健全な性のアイデンティティと性の価値観を確立するのに助けることにおいて最も基礎的で、拠り所となる重要な貢献をすべき存在である。しかし、親が自分の子女の性の価値観教育に適切に対処することができず、親としての役割を果たさないことがしばしばある。その理由は夫婦ともが仕事に行かなければならないために、子供と会話する機会を持つことがあまりないからである。(Han, 1997) 学校は意図された性教育計画を行うことはできるが、学校における性教育の効果に関する研究が示していることは、健全な性の価値観教育に関する調査研究がほとんどないということであった。(Yang, 1997)そして、現在の性教育プログラムは、肉体の変化や妊娠と異性とのデートに焦点を当てているだけである。(Moon 1997)

一方、デヴィッドやグッドソンその他(2005)、ホルツナーとオエトモ(2004)による国際的な論文も、性教育プログラムの効果には限界があることを示している。(David, 2005; Goodson et al., 2005; Holzner and Oetomo 2005) これらの論文では、性病や予期せぬ妊娠を予防するための性教育プログラムは避妊教育や親との対話やコミュニケーションによって効果を発揮することができる」と書かれている。サンテリその他の研究者は、「禁欲のみの教育政策とプログラム」(2006)という論文において、禁欲のみのプログラムは倫理的に問題であり、本質的に威圧的で、しばしば誤った情報を伝えたり、情報を知らされてから選択するのに必要な情報を提供していないことがある、と説明した。学校や保健担当者はティーンエ

イジャーたちにとって一つの重要な選択肢として禁欲を奨励すべきである。パパハルトウ等は「健康問題における生徒たちの性への態度の探求」と題する記事(2008)を書いて、ジェンダー、個人の価値観、経験などが性の問題に対する生徒の態度に影響する、と強調した。否定的態度は性に関する効果的な健康相談を妨害する可能性があるので、効果的なコミュニケーションや人間の性に関するコースを、生徒が自己の価値観や偏見に関する意識を高めるような医学や関連する保健カリキュラムに組み込むことが肝要である。2008年、「大きな話し合いを超えて」と題する記事の中で、親との性に関するコミュニケーションをより繰り返している若者の方が繰り返しが少ない若者よりも、親との関係がより密接だと感じており、全般的に、特に性に関して親とより多くコミュニケーションできると感じ、性に関する親との議論がよりオープンにできると感じている、と説明し、性に関して親と議論を繰り返すことが非常に重要であると主張した。(Martino et al., 2008)

しかしながら、これらのプログラムは若者の性的な問題を根本的に解決できるものではない。それは人間は自分自身の判断に基づいて自己の性的な活動を決めるものだからである。健全な性の価値観に関する教育は性の問題を根本的に解決することができる。何故ならば健全な性意識は正しい決定を導くことができ、結局は健全な性活動をもたらす結果となるからである。従って、若者が健全な性のアイデンティティを確立し、性に関連した諸問題から自分を解放するのを助けるためには、具体的で効果的な性の価値観を教えるプログラムを開発することが緊急に必要である。

中高生のための健全な性の価値観を教えるプログラムで扱われた核心的なテーマの第一は

性器の価値についてであり、第二は、性器の所有者、第三は、性器の存在する原理的な理由についてである。これらのテーマのすべては十代の若者が適切な性の価値観を確立するのに助けるのに極めて重要である。私と二人の教授は韓国のアサンにあるソンムン大学純潔学部で仕事をしており、中高生に適した健全な性の価値観を教えるプログラムを開発した。この研究においては、このプログラムの実施前後の変化を分析することによって、このプログラムが中高生に対してプラスの教育効果があったか否かを論じるつもりである。私が願うことは、この研究が意味ある性の価値観教育を教師が行うのを助ける基本的な教材を提供することによって、性の価値観プログラムに貢献することである。

健全な性の価値観を教えるプログラムの基礎

このプログラムの4つのテーマの基礎となるのは、ソンムン大学純潔学部の創設者であるムン・ソンミョン師の教えである。ムン師は、神が純潔の主であり、根であると説明する。(2004) 純潔を具現化する人々は、神の存在を感じ、人生をありがたく思い、すべての人類を愛することができる人々である。純潔を重んじる人々は、最も近い方法で神とコミュニケーションすることができる。(Moon, 2007) 純潔は真の家庭の基礎である。ムン師は、生殖器は男性をより男性的にし、女性をより女性的にする人間の体を代表する器官であると説明する。それらは男性と女性が一体化する愛の源である。また、それらは愛を完成することによって調和ある家庭生活をなすための鍵である。それらは新しい生命と家族を創造する。ム

ン師は、生殖器には存在のための原理的理由があると言われた。(Moon, 2004) また、お互いを愛する夫婦は絶対的、不変的、永遠的關係を維持したいと願い、彼らの愛は生殖器を通して完成するとも言われた。

リー先生は、自然とすべての被造物は存在のための原理に一致した発展段階を通過すると言われた。(Lee, 1976) どのような被造物であれ、万物は完成するためにはある一定の期間を通過しなければならない。同様に、人間も、身体的、情緒的、社会的、心理的に自己の性にその役割を果たさせるに十分な程度に成熟するためには、一定の期間を通過しなければならない。

生殖器にはそれ自身の存在のための目的がある。(Moon, 2007) 存在目的とは、夫と妻の間の愛を完全なものとし、子供をつくり、さらに大きな地域社会を建設することである。それは人類歴史が動きと発展を続けることができるためである。人間は自己の生殖器の所有者が誰であるかについて考えなければならない。男性生殖器の所有者は妻であり、女性生殖器の所有者は夫である、とムン師は言われた。私たちは、単に自分の性器は自分の体についているのだから、自分のものであると思っはいけない。それ故、夫婦は性的関係を持つことによって肉体的かつ精神的に一体化することができる。(Moon, 2007) それ故、配偶者だけが愛の鍵を握ることが許されるのである、と強調された。男性と女性は自分の生殖器の所有者が自分の配偶者でなければ、ひとつになることはできないはずである。生殖器を適切に使用しなければ、重大な悲劇、すなわち、夫婦間や親子間の葛藤に至る可能性があるのである。

自分が愛し、結婚し、セックスする相手はただ一人でなければならない、とムン師は言われた。(Moon, 2004) もし多くのパートナーがいて、それらの人を愛し、結婚し、セックスするとしたら、幸福な人生を楽しむことはできないであろう。生殖器を理想的に使用することができるのは、夫婦がお互いに愛し、結婚した後に性の交わりをする時のみである、とムン師は言われた。(Moon, 2007) 生殖器を適切に使用する時にのみ、私たちは愛の交わりを行い、愛の秩序をつくり、調和ある家庭生活をなすことができる。しかし残念なことに、私たちの社会は歪んだ性の価値観や **性の商品化**、不健全な性活動によって苦しんでいる。(Moon, 2007)

方法

サンプル抽出

この調査の主体は、主に親が自分の子供に健全な性の価値観プログラムに参加してほしいと願っている韓国の中学生であった。160人の生徒たち全員が親に勧められてこのプログラムに参加した生徒であった。この中から無作為に選ばれた70人の生徒に対して、質的な研究を実施し、彼らを個別に面接した。研究は2008年8月30日から2008年9月20日まで続いた。私と2人の教授が毎週土曜日に4週連続して、一回4時間続く健全な性の価値観を教えるプログラムを実施した。

調査の参加者

回答者の年齢については表1にまとめられている。

私たちは、108人の男子生徒(67.5%)と52人の女子生徒(32.5%)、合計160人から回答を得た。これらの生徒の内、140人(87.5%)が中学生、12人(7.5%)が高校生、そして、8人(5.0%)の生徒は自己の立場を明らかにしなかった。学年については、56人(35.0%)が1年生、60人(37.5%)が2年生、40人(25.0%)が3年生、3人は何年生かを特定しなかった。これらの生徒の居住地については、52人がソウル、28人がキョンギ道、4人がインチョン、8人はカンウォン道、24人はキョンサン道、16人はチョルラ道、12人はチュンチョン道、16人は回答しなかった。

手続き

この調査のための教育プログラム

このプログラムに参加したのは、性の価値観について子供に教えて欲しいと願う親から送られた合計160人の生徒であった。参加した生徒の大部分は親の勧めによって参加した。2008年8月30日から9月20日まで4回教育が行われた。各プログラムにはそれぞれのテーマがあり、4時間かかったので、プログラム全体を終了するのに合計16時間かかった。4

人の教師がこれらのプログラムを作成して実施した。私たちは、このプログラムの前後にそれぞれ 11 の質問に対する回答を受け取った。この調査のためのプログラムでは、私たちは教育のために適切な 4 つのテーマを選んだ。又、このプログラムに参加することを希望した親たちもオブザーバーとして参加した。

最初の教育プログラムでは、健全な性の価値観についてのプログラムの最初のテーマは生殖器の重要性と価値についてであった。このプログラムの目的は以下の通りであった。

第一に、生徒たちが生殖器の重要性と価値を理解し、自己の生殖器を含むすべての生殖器が、愛、生命、血統の王宮として貴重な宝物であることを認識するのを助けるようにすること。

第二に、節操のない性活動があらゆる種類の性感染症、予期せぬ妊娠、および複雑な男女関係から生じる混乱をもたらす結果を伴うものであることを生徒たちに認識させるようにすること。

第三に、生徒たちが健全な性意識と性行動を確立することによって、純潔で清い生殖器を維持できるように助けること、であった。

この過程で、私たちは、純潔な生殖器とみだらな生殖器について表現する 2 つの部屋を作った。これらの部屋の目標は、彼らが自己の生殖器を純粋なものとして持つことの価値について悟ることを助けることであった。

2 週目のプログラムについて言えば、プログラムの 2 番目のテーマは自己の生殖器の目的について理解させることであった。プログラムの目標は以下の通りであった。

第一に、自分たちが愛するために生まれたのだという真理を生徒たちが知るようになることを助けようとする。

第二に、各自が人生の偉大な使命、すなわち、新しい生命たる子供をつくるという使命を果たすために生まれたことを悟るよう助けること。

第三に、各自がかけがえのない貴重な人間であることをわかるのを助けること、である。

各自は良き家庭をつくることによって、歴史の一部であることができる。教育プログラムの中に、生徒たちは生殖器について感じたことを書いて発表した。それから、私たちはテーマに関連するグループ・パズル・ゲームをした。次に、私たちは、愛、生命、血統の3つの王宮の部屋を建設して、生徒たちにそれぞれの部屋を経験させた。これらの部屋の目標は、生徒たちが自分自身の生殖器の存在目的を悟るのを助けることであった。

3週目のプログラムについて言えば、3番目のテーマは「生殖器の所有者は誰か?」であった。この教育の目的は以下の通りである。

第一は、自分の生殖器の唯一の所有者は自分の将来の配偶者であることを生徒たちに知らせることであった。

第二は、将来の配偶者のための最も貴重な贈り物とは、自分の生殖器が純潔であることを配偶者に知らせることであるのを悟るよう助けることであった。その過程で、私たちは生徒各自に自分の将来の配偶者宛の手紙を書かせた。それから、2つの木についてのビデオを見させた。一本の木にはおいしそうな果物がなっており、もう一本の木には腐った果物がなっているものであった。このビデオを見ることによって、生徒たちは純潔な木のみが良い果

物を生み出すことができること悟ることができた。その教訓からのメッセージは、愛の純潔を最も貴重な宝物と考えるカップルだけが、お互いの信頼に基づく円満な人生を送ることができる。純潔なカップルだけが良い胎教を持つことができるだろうが、結婚前に純潔を保たなかったカップルは、幸福な人生をおくることができないということである。

最後の週の教育のテーマは、自分の生殖器の存在の背後の原理原則についてであった。この教育の目標は、生徒たちが自分の生殖器を 사용하는のに十分な程度に肉体的に、精神的に、社会的に成熟しなければならないことを理解するのを助けることであった。その過程で、私たちは、生徒各自に熟した果実と熟していない果物を試食させて、どちらの果物が良い味がしたかを選ばせた。このレッスンにおけるメッセージは、セックスは理性的に決定しなければならないことを彼らが認識するのを助けることであった。すでに述べたように、私たちは4つの重要なテーマを選んで、その目標、内容、および方法に従ってプログラムを実行した。

成果の評価

アンケート調査

参加した160人の生徒に対して以下の調査を実施した。私たちは調査した生徒の学校、学年、居住地区を含む全般的な状況を記録した。質問項目は本人と韓国ソナムン大学純潔学部
の二人の教授が作成したものであり、11の質問と3つの大きなカテゴリから成るものであ

た。生徒たちは 4 ポイントのリッカート尺度(スペクター、1992)で回答することができるものであった。

質問の一例は以下の通りである。「愛していない誰かとセックスすること」。これに対して、学生は、全く同意しない、同意しない、同意する、完全に同意する、の中から選ぶことによって回答する。回答の際に生じる可能性のある偏向を避け、内部の妥当性を高めるために、私たちは、肯定的と否定的な両方の言い方をする項目を含めた。(Varkevisser と Pathmanathan、2003)アンケート用紙は教室にいる生徒たちに配布した。調査チームのメンバーだけがアンケートに回答する間その場に出席していた。

第 1 のカテゴリーは性意識に関するものであり、質問 3、6、7、8、10、11 がこのカテゴリーに含まれる。質問は以下の通りである。

「愛していない誰かとセックスすることは、オーケーですか？」

「売春活動はオーケーでないと思いますか？」

「異性とデートしたいですか？」

「猥褻なものを見たいですか？」

「男性と女性がデートする時にセックスするのはオーケーですか？」

「あなたはポルノ・ビデオで見たことを実践したいと思いますか？」

第 2 のカテゴリーは、性的な振る舞いと性的活動についてであり、質問 2、4、5 がこのカテゴリーに含まれる。これらの質問は以下の通りである。

「あなたは性的な衝動を感じる時、セックスしますか？」

「デートしているとき、セックスしたいですか?」

「結婚前にあなたのボーイフレンドかガールフレンドと同棲するのはオーケーだと思いますか?」

最後のカテゴリーは純潔、家族計画の自覚および受諾に関するものである。

質問は以下の通りである。

「人生の目標は良い家庭を作ることであると思いますか?」

「あなたは、結婚前に自己の純潔を保つことができますと思いますか?」

質的な面接

一定の問題をより深く探求するために、無差別に抽出された 70 名の生徒に個人的な面接を行った。生徒たちに面接の長さについて知らせ、興味を持った者は調査チームにアプローチして、面接のために都合の良い日時を決めた。生徒を調査するために、自由に回答できるようなあまり厳格でない面接のガイドラインを使用した。(Pope and Mays, 2000) 面接は私と 2 人の教授によって、ソンムン大学の教室で行われた。

この論文報告のために、我々は調査データを補足するために、質的面接からわかったことの一部を選択した。生徒への面接は 6 つの質問から成っており、回答者たちにとって HSVE (健全な性の価値観を教える教育) が個人的にいかに関値があると感じているかに関するものであった。それぞれの質問を回答の調査と共に下に示す。

「HSVE プログラムは純潔な人生の価値に関するあなたの信念を増進しましたか?もしそうだとすれば、どのようにですか?」

この質問に対しては生徒すべてが肯定的に回答し、自己の確信の理由について回答した。

多数(62 人の生徒)が、自分が参加したプログラムが確信を増進した理由であると述べた。8 人の生徒は、プログラムの中で行われた夫婦としてのロール・プレイのような活動を通して純潔の価値を確信したと答えた。

「HSVE プログラムによってあなたは純潔の価値について十分に理解するようになりましたか? もしそうだとすれば、どのプログラムが最も役に立ちましたか?」

この質問に対しては、どの生徒も否定的な回答はしなかったが、多数(58 人の生徒)は、すでに性体験のある他の生徒たちに純潔の価値を効果的に示すためには、プログラムをもっとアカデミックなものに開発する必要があるとコメントすることによって、自分たちの回答を修正した。彼らが言及したコースとは、純潔プログラムを身近なものにするのに役立つようなコースであった。

「HSVE プログラムの中で、最も多く学んだか、得るものが最も多かった 3 つの点を特定してください。」

「プログラムの中で、最も役に立たないと思ったか、最も好きになれなかった 3 つの点を特定してください。」

回答者の多数はプログラムの中で、生殖器と純潔の重要性(61 人)及びほとんどのコースが純潔を基礎にしていること(9人)という2つの点が最も価値があったと述べた。プログラム

の中のどの部分が最も役に立たないかについては同意がより少なかった。事実、12人が、このプログラムには、「益する点がなかった」と回答した。

10人の生徒は、プログラムのいくつかの内容が重なっている点が好きでなかったと述べ、他の6人は、いくつかのプログラムはもっと実地的なものに開発する必要がある、と回答した。役に立つ点が最も少なかったと指摘されたものの中には、プログラムの教材が含まれていた。

「どのコースが最も役に立ちましたか、それはなぜですか?」

3人以上の生徒が最も役に立ったと答えたプログラムは以下のプログラムであった。

「生殖器の所有者は誰か?」に関するプログラム(25人); 「生殖器の重要性と価値」に関するプログラム(14人); 「自分の生殖器の存在の背後の原理」に関するプログラム(16人); 「自分の生殖器の目的」に関するプログラム(3人)。

10人の生徒は、「ほとんどのコースが役に立った」と言い、2人は、「私たちがプレゼンテーションをしたり、ディスカッションするプログラムが最も役に立った」と回答した。

「最も役に立たなかったのはどのコースか、そしてその理由は?」

約半分(34人)が、「役に立たないプログラムはなかった」又は、「ほとんどのプログラムがそれぞれ異なる点で役に立った」と答えた。この質問に対する他の回答としては、何人かの生徒が最も役に立たないと思ったこととして、1つか2つのプログラムを挙げていたが、そのように答えたのは少数(3人以下)であった。

「あなたはHSVEプログラムを他の人に推薦しますか? 推薦する理由は? しない理由は何です

か？」この質問に回答した生徒は(67人)は全員が肯定的な回答であった。

HSVE を学んでうれしい理由としては、純潔な生活をするのが幸福で誇りに思うから(23人)；将来の配偶者のために生きるのが幸福だから(22人)；純潔について他の人たちに教えた
いから(10人)という回答があった。

3人の生徒は純潔の価値観を維持する自分の能力をさらに開発する必要があるという懸念を表明し、12人はHSVEプログラムを学んだ後に、自己の性的好奇心と性欲について不安があると述べた。回答した全員はHSVEを他の人に勧めると言ったが、多くの生徒(43人)が自分の性欲にどのようにして克服するかについて懸念を表明した。

データ分析

この研究のために、私は解析ツールの信頼性と正当性の分析をするのにクロンバック・アルファを使用し、要因を研究するのに、PCA(主成分分析)要因分析を活用した。諸要因を解釈するために、私は、Varimax(直交回転)を利用し、実施前後の分析のためにt-テスト分析を行った。性意識と性行動に関する変化を理解するために、SPSSソフトウェアによる反復測定を伴うANOVAを実施した。個人面接からのデータは質的内容分析で分析した。すべてのデータが集まってから、分析を始めた。そして調査チームのメンバーはこのプログラムの評価データの結果を得るために面接の回答を読んだ。

アンケート調査のための規格の妥当性と分析の信頼性

この調査のために、私は性意識、性行動、および純潔家族計画に関する 11 の質問を含むアンケートを実施した。仮説を検証するために、仮説に使用された変数を測定するためのツールの妥当性と信頼性を厳密に検証することが必要であった。(Che, 1992)信頼性とは、多くの測定が同じ結果を生まなければならないことと事実を構成する諸項目が内的な整合性を持つことを意味する。マルチ項目規格を使用する変数の信頼性を検証するためには、項目分析を使用することができる。項目分析の様々な方法の中では、信頼性を害する項目を測定ツールから除外することによって測定ツールの信頼性を高めるための方法であるクロンバック・アルファを使用した。信頼度係数は 0.5 以上であることが決定した。(Hair et al. 1998)

妥当性とは、測定しなければならないものを測定するのに測定器が適切に使用されていることを意味する。測定器が実際に何を測定しているか、又、研究者が実際に測定しようと意図している抽象的概念を適切に測定しているか否かを検証する方法がある。それは構成概念妥当性 (construct validity) である。構成概念妥当性を測定する方法として、多角特性-多角法 (multitrait-multimethod) マトリクスと要因分析がある。この研究では、妥当性を検証するために要因分析を使用した。要因を抽出するためには主成分分析(PCA)を使用した。これは一般的に測定される要因が線状に結合していることを意味する。初期段階で得られた要因を明確に解釈するために、要因回転として Varimax(直交回転)を使用した。要因分析を一次元の尺度で行う場合にそれが 0.4 以上である時は、変数と要因の間の相関関係を表す要因

装填 (factor loading) が重要であると言える。(Lim, 1992) (Table 2)

分析の結果、3つの要因があり、その3つの要因を説明する総力は約74.1%であることが示された。第一の要因は6つの質問から成っており、それらは質問3、6、7、8、10、および11である。要因1は「性意識」と名付けた。何故ならこれらの質問はジェンダーに対する一般的な態度を示しているからである。要因2は「性行動」と名付けた。何故なら質問2、4、5などの3つの質問は性行動に関連しているからである。要因3は「純潔家族計画の自覚と受諾」と名付けた。何故なら質問1と9のような2つの質問は、純潔と愛の達成を重視するより高いレベルの性的認識を伴う心構えに関連しているからである。これらの質問から成るそれぞれの要因の信頼性を分析した結果、それらの信頼性はそれぞれ0.909、0.744、0.541であり、すべてが0.50以上であることが示された。そのことは各要因の下での質問は内的な一貫性を維持しており、適切なレベルの信頼性があることを意味するものである。

結果

私は合計160人の生徒から有効な回答書を受けとった。108人が男子生徒で、52人が女子生徒であった。140人が中学生、12人が高校生であったが、8人はどのような学校に通っているかを記録していなかった。140人は12~14歳で、12人が15~17歳であった。8人は何歳かを記録していなかった。アンケート調査の結果を以下の3つの主要項目で提示する。(i)性意識;(ii)性行動;(iii)純潔家族計画の自覚と受諾。

このプログラムの実施後、生徒たちの間にいくつかの変化があった。性意識に関しては、数字は 3.75 から 4.69 へと 0.94($p<0.05$)向上した。性行動に関しては、3.68 から 4.66 へと 0.98($p<0.05$)向上した。純潔家族計画の自覚と受諾に関しては、3.62 から 4.49 へと 0.87($p<0.05$)向上した。

これらの統計によると、性意識、性行動、純潔家族計画の自覚と受諾を含むすべてのセクターにおいて、プログラム実施前後では変化があった。従って、このプログラムが生徒に非常に肯定的な影響を与えたと結論づけられた。女子生徒の方が男子生徒よりもこのプログラムからより多くの肯定的な効果を示していたことがわかった。このことは女性の方が男性よりも純潔の自覚をより強く持っていることを示唆している。各項目について、アンケート調査の結果を質的面接の結果で補った。

ディスカッション

性教育の目的は、社会の一員としての男女間の信頼と協力を推進することによって、学生・生徒が健全な家庭と社会をつくるのをどのように助けることができるかにある。(Lee, 1997)セクシャル・ハラスメントや性的暴力を予防するためにいくつかの研究がなされた。性教育者であるユンその他は、適切な性の価値観と性倫理の教育を行うための健全な性意識と性行動を強調する。(Yoon 他、2002)ベネットとアセフィは、「学校ベースの十代の妊娠防止プログラム」と題する彼らの論文の中で、妊娠を実行するのは非常に効果的であると述べた。

(Bennett and Assefi, 2005) 似たような仕方でグリーンとドクメも又、彼らの論文(2005)の中で、親子が十代の妊娠の防止の目的をもってなす対話を促進することはうまく行くことなのである、と述べた。

イギリスでは、政府が関連する法律を制定することによって十代の妊娠防止をリードした。(Davey, 2005) 例えば、2005年3月に、エイズと性の健康のための Medicak 財団は、性の健康サービスの配達の質を改善するために性の健康の 10 項目の基準の包括的なセットを発行した。それらは一貫した公正で高品質の性の健康ケアに、人々が迅速かつ便利にアクセスするのを可能にする目的で開発されたものであった。同様に、青少年が健全な性意識を発展するのを助けるためにプログラムを作成したり、法律を制定するなど多くの研究と努力がなされてきた。しかしながら、性意識のための具体的な教育プログラムは見つけられなかった。

そこで私の究極の目標は、青少年に健全な性意識について教育することによって、彼らの健全な性意識と性行動を発展するのを助けることであった。それ故、この研究の目的は、私たちの健全な性の価値観プログラムが男女の生徒たちに対してどれくらい肯定的な効果があるかを検討することであった。さらに、この研究によって、性意識、性行動、純潔な家庭の創造に関して、男女間にどれくらいの格差があるかを見つけようとした。そして、現在の状況を詳細に検討する一方で、この研究の結果が何を意味するかを議論している。

分析前後の相違

性意識プログラムの有効性を測定するために、私は健全な性の価値観プログラムを実施した後で、生徒たちの「性意識」、「性行動」、および「純潔家族計画の自覚と受諾」に何か意義ある変化があったか否かを研究した。そのために対にしたサンプル t-テストを使用した。その結果は表3にまとめられている。

表3の結果から言うと、「性意識」については3.75から4.69へと約0.94ポイント肯定的に向上した。また、統計的にも、「性意識」についての分析の前後では、著しい違いがあった($p < 0.05$)。従って、健全な性の価値観プログラムは生徒たちの性意識を肯定的に改善するのに貢献した。

「性行動」については、3.68から4.66へと0.98ポイント改善した。また、統計的にも、実施前後の分析の間には、「性行動」について著しい変化があった($p < 0.05$)。従って、健全な性の価値観プログラムは生徒たちの性行動の改善に貢献した。

また、統計的に、純潔家族計画の自覚と受諾に関しても、3.62から4.49へと0.87ポイント増加するなど、かなりの改善があった($p < 0.05$)。要するに、健全な性の価値観プログラムは生徒たちの純潔家族計画の自覚と受諾に肯定的な改善に貢献したのである。

実施前後のジェンダーにおける変化の違い

この分析は、性的態度と行動に関する調査実施前後の変化について、男女生徒の間で差異があったか否かに関する結果を示すものであった。この分析のために、反復測定を伴うANOVAを使用した。

性意識

最初に、この研究は性意識における差異を分析した。その結果は表4にまとめられている。分析によると、性意識に関する前後の変化にはジェンダーによって著しい違いがあった($F=11.064$, $p<0.05$)。要するに、性意識における変化の程度は男女の生徒の間でかなりの差異がある。図1は変化と差異を示す。

図1から言えることは、前後を比較すると、女子生徒の方が男子生徒よりもかなりの変化があったことを示している。又、統計的には、有意性のレベルに関して0.05で、その差異は意味がある。

性行動

この分析は、性行動に関する実施前後の変化について、男女生徒の間で差異があったか否かに関する結果を示すものである。結果は表5にまとめられている。

分析によると、統計的には、性行動においてはジェンダーによる著しい差異はなかった。

($F=0.440$, $p>0.05$) 従って、要するに、男女の生徒の間で変化の程度に差異があったとは言えない。図2は変化と差異を示す。

図2から言えることは、性行動においては、男女の生徒は同じ程度の変化を示した。

純潔家族計画の自覚と受諾

最後に、分析によって、男女の生徒の間で純潔家族計画の自覚と受諾における(プログラム)実施前後の変化には差異があったことが示された。その結果は表6にまとめられている。

分析によると、統計的には純潔家族計画の自覚と受諾における変化にはジェンダーによって著しい差異があった。(F=20.267, $p<0.05$)従って、純潔家族計画の自覚と受諾における変化の程度はジェンダーによって異なるということができた。図3はその事実を示している。

図3によると、純潔家族計画の自覚と受諾においては女子生徒の方が男子生徒よりも大きい変化を見せている。これは純潔自覚プログラムによって、女子生徒の方が男子生徒よりも純潔家族の自覚がより肯定的に改善したことを意味する。結論として、このプログラムは性意識、性行動、純潔家族をつくりたいという欲望に関して、男女生徒の双方に肯定的な変化を与えたと言える。

この研究はサン(1993)とヨン(1997)によって行われた研究と軌を一にしている。両氏とも、性意識と性行動に肯定的な変化をもたらすために、性の自覚を与える教育の意義を強調して

おられた。この研究が 1990 年代の研究と異なる点は、この研究ではいかなる性の価値観を教えるべきかを詳細に提言していることである。また、この研究はそのような性の価値観を生徒たちに教えるように詳細に構成されている。それが国際的な諸研究との違いである。言い換えれば、性の自覚を高めるそのようなプログラムは生徒たちに肯定的な変化をもたらすのに非常に効果的である。このプログラムの実施後、変化はあったが、男女の性意識と行動に関しては、大きな変化はなかった。しかし、純潔家族計画となると、実施前後にはかなりの変化があった。プログラム後、女子生徒には男子生徒よりも顕著な改善が見られた。

このことはキム(1991)とリー(2003)による研究でも同じである。ピルファ・ジャンは、それは私たちの社会構造のためであると言った。(1995)男子生徒は性、愛、結婚に関する見解を切り離して持っているのに対して、女子生徒はそれらが一体となっているのを理想的な社会規範と見る傾向があるから、と彼は論じた。それは主として、男性は女性が経験する不利な点をセックスとは切り離しているとしても、純潔な性の自覚の認識における男女間にギャップがあるのは、男性と女性を別に扱う社会のダブルスタンダードを男性がただ受け入れていることを意味するからである。

この問題を解決するためには、性の自覚教育プログラムを実施して、性に関して広まっている社会の認識を変える努力をする必要がある。性の自覚教育プログラムに関して私が提案したいことは、健全な性の価値観を確立せずにセックスする場合に女性がこうむる情的、肉体的、社会的困難に関する包括的な研究を行う必要があるということである。のみならず、ティーンエイジャーたちは健全な性の価値観を形成する際に、社会的文化的な影響を非常に

受けやすいので、社会に広がっている性の認識を変えなければならないのである。それ故、私たちは、社会一般の性的価値観とティーンエイジャーたちの性意識との関連についてのより具体的な研究を行うために全面的な努力をすべきである。

研究の限界

複雑な倫理道徳的な問題を測定するのに量的尺度には良く知られた限界がある(オープンハイム、2000)が、諸グループからの全体像を得たい場合には役に立つ。私たちは質的及び量的なデータを結合することによって、生徒たちの性意識と性行動に関する幅広くかつ深い視点の両方を得ようと試みた。生徒たちの性意識と性行動は異なるかも知れないし、それ故に、調査の結果も実施された特定の状況によるものとなるかも知れない。

若者の性の価値観の問題は韓国ではデリケートな問題であり、生徒たちの回答も彼ら自身の個人的な見解というより、むしろ社会的に受け入れられた見解に偏っていると予断するかも知れない。私たちの調査においては、状況の秘密性によってそのような偏りはありそうもないし、面接における私たちの印象は生徒たちが非常に自由に確信を持って話したということである。言語の障壁は翻訳が必要な質的研究においては避けられない限界である。そこで私たちは中心的な概念の意味を慎重に選ぶことによって、その限界を克服しようと試みた。

結論

この研究は健全な性の価値観を確立するようにティーンエイジャーたちを教育するための基本的な材料を提供するためのものである。健全な性の価値観プログラムを学校で実施すれば、明らかにプラスの効果を目撃するようになることが期待される。したがって、私たちは、性教育プログラムの諸問題を克服するために、現行の性教育プログラムを健全な性の価値観教育プログラムに拡張するように試みることを学校に提言するものである。このような状況を背景にして、健全な性の価値観教育を全国的に拡大するために、私たちの社会が全体として、青少年のために性教育を行う必要があることを受け入れることが一層重要である。